

## 犯人蔵匿等、証拠隠滅等及び証人等 威迫の罪の刑期・罰金額区分別人員

犯人蔵匿等、証拠隠滅等及び証人等威迫の罪の刑期・罰金額区分別人員

		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
懲役・禁錮 (※3)	有罪人員	34	42	21	26	28	32	30	33	33	29	
	3年	実刑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		執行猶予	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2年以上3年未満	実刑	—	—	1	—	—	—	—	—	—	2
		執行猶予	—	2	—	—	1	—	—	1	1	1
	1年以上2年未満	実刑	5	4	1	3	1	3	4	3	3	4
		執行猶予	14	17	9	11	8	15	14	12	13	11
	6月以上1年未満	実刑	8	4	4	4	7	9	6	8	10	4
執行猶予		4	13	6	8	8	5	6	8	3	5	
6月未満	実刑	1	1	—	—	3	—	—	1	3	1	
	執行猶予	2	1	—	—	—	—	—	—	—	1	
罰金	有罪人員	3	1	2	3	1	—	1	2	2	1	
	30万円以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	
	20万円以上30万円未満	3	1	1	3	1	—	1	2	1	—	
	10万円以上20万円未満	—	—	1	—	—	—	—	—	1	—	

※1 本資料は、最高裁判所事務総局作成の統計資料に基づき作成したものであり、その数値は、犯人蔵匿等、証拠隠滅等又は証人等威迫の罪が処断罪であるものの数値である（同統計資料においては、併合罪について主文において1個の刑が言い渡された場合には併合罪中法定刑の最も重い罪が、法定刑が同一のときは犯情の重い罪が処断罪とされ、主文において2個以上の犯罪事実について各別に主刑が言い渡されている場合には言渡刑の重い罪が、言渡刑が同一の場合には法定刑の重い罪が、法定刑が同一の場合にはそのうちの1個が処断罪とされている。）。

※2 通常第一審終局事件のうち、有罪事件を対象とし、当該事件の終局日を基準として計上している。

※3 執行猶予は、いずれも刑の全部の執行猶予である。